

高尾山山頂から発信！

のぶすま

リニューアルしました！

vol.39 季刊
2015年春号

美しさは誰がため？

彩り豊かな高尾山の春の花々

多彩な姿で私たちの目を楽しませてくれる高尾山の春の花々。花たちはその姿で、大切な存在の訪れを待っています。花々が彩る理由、その本当の意味にふれたとき、高尾山の自然はもっと奥深いものになるかも知れません。



ヤマツツジ
花期:4月下旬～5月下旬



ガマズミ
花期:5月中旬～6月中旬



ノアザミ
花期:5月下旬～6月下旬



タチツボスミレ
花期:4月上旬～下旬



ラショウモンカズラ
花期:4月中旬～5月中旬



ハウチャクソウ
花期:4月下旬～5月下旬



ヤブヘビイチゴ
花期:4月上旬～5月下旬

お待たせしました！

高尾ビジターセンター リニューアルオープン！！

高尾ビジターセンターはリニューアルオープンに向け、2014年の1月より約1年間仮設ビジターセンターでの運営を行って参りました。皆様には大変ご不便をおかけしたと思いますが、その間もたくさんの方々に支えられ、無事に今日を迎えることができました。本当にありがとうございました。

たくさんの人々が訪れるこの高尾山、環境面では様々な問題を抱える山であるとも言えます。高尾ビジターセンターは、今後も皆様とこの美しい自然を楽しみ、また考える場であり続けたいと思います。これからも、高尾ビジターセンターをどうぞよろしくお願い致します。皆様のお越しを楽しみにしています！



館内展示も新しく
なりました！

休館日変更のお知らせ

リニューアルオープンにともない、休館日がかわりました！今年度より、**毎週月曜日休館**となりますので、お間違えのないよう、どうぞよろしくお願い致します。



嫌よ嫌よも好きのうち？

「毛の生えた茶色いウジ虫みたいなのが地面に何百匹もいたのだけれど、いったい何の生き物ですか！？」

昨年の秋は、お客様の驚きと気味悪そうな表情とともに、こうした質問をたくさん頂きました。この生き物の正体は「ケバエ」というハエの仲間です。秋頃に地表に幼虫が大量発生するのが特徴です。

日々のご質問で、お客様の好きな生き物について伺う機会が多いですが、人に嫌われそうな生き物については稀です。

ところが、ケバエの質問に來られた方々は、生き生きとした表情で話をされ、また、私たちの話を興味深げに聞かれていました。ケバエの様子の不気味さが、見た人に強烈な印象と関心を与えたのだと思います。

「嫌」という気持ちだが「好」に劣らない好奇心を湧かせているのかと思うと、嫌と思うことも自然をより深く知るための大事な要素の一つなのだなと思った出来事でした。

解説員
くらむ
vol.1

解説員 藤野

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2015年春号 vol.39

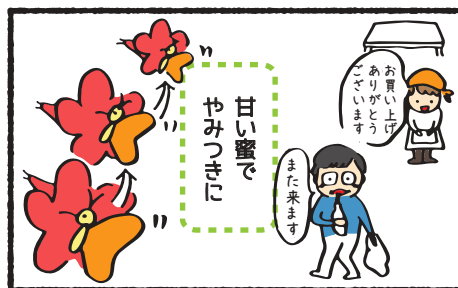
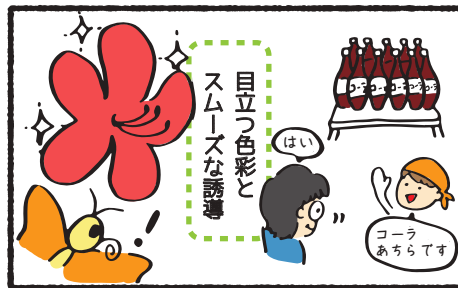
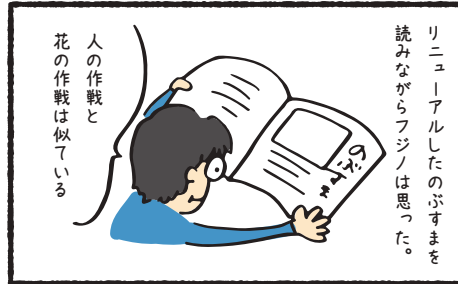
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2015年4月8日発行

所在地：〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2176 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926

URL：http://takaovc599.ec-net.jp（カラー版最新号を閲覧できます）

たかおさん

「人と花の戦略」の巻



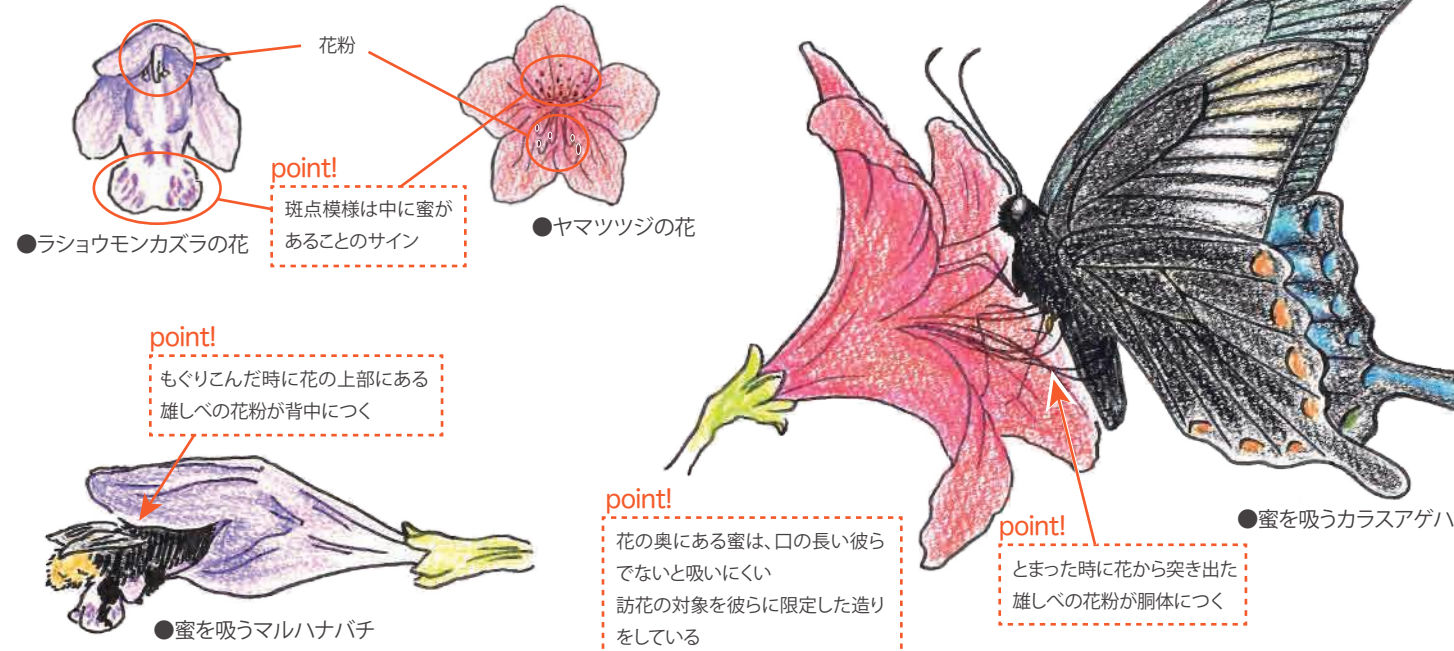
「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

花々の待つ大切な存在……それは昆虫たち。

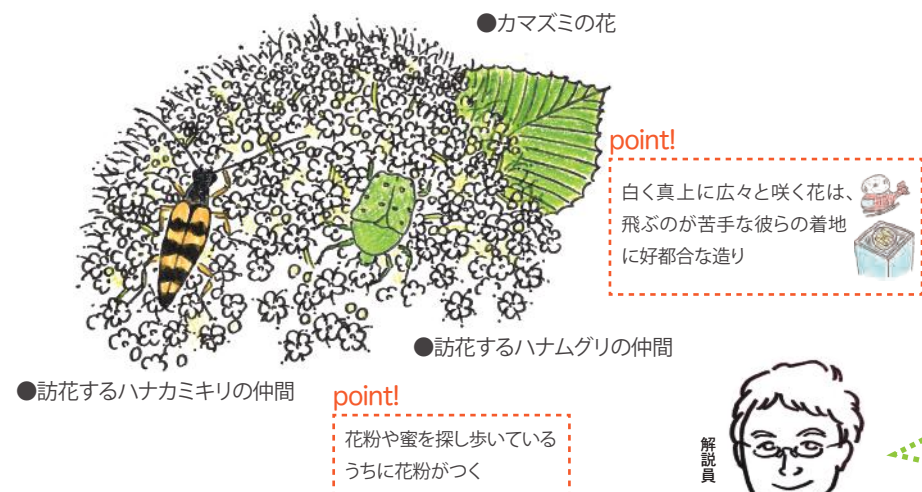
花と昆虫の共生が、高尾山の自然を未来につないでいます。

花々が多彩な姿形をしている理由、それは昆虫を誘うため。花は花粉を遠くに移動させるために、風や水、また他の生き物を運び役として利用します。その一つが昆虫です。花は訪れた昆虫に、花粉そのものや蜜を食べ物として提供するかわりに、花粉を付着させます。その昆虫が他の株の花を訪れて受粉できれば、その花の種はより多様な遺伝子を後世に残せる機会を得られます。花たちの昆虫を誘って花粉を付着させる工夫、その一部をご紹介します。

色鮮やかな花は、ハチやチョウの仲間を主に呼び寄せます。



テーブル状の白い花は、カミキリムシやハナムグリなどの甲虫の仲間を主に呼び寄せます。



解説員
フジノ

この花と昆虫の関係は、それぞれの利益を求めた活動が、お互いの利益になっていることが分かります。その姿は、まるで異なる生き物同士が助け合っているようにも見えます。そう考えると、自然の営みとは実に不思議で魅力的に感じます。

私たちが花を美しいと感じることも、ひょっとしたら花の何かの作戦なのかも知れませんね。

高尾ビジターセンターは こうして始まった

昭和42年「自然に恵まれない大都市の人々に自然の保護を図りながら、自然と楽しめるレクリエーションの場の提供」することを目的に明治の森高尾陣場国定公園は設定されました。当時の日本は高度経済成長の真っ只中。産業活動が活発になり地方から都市に人が集中し、環境汚染、森林破壊などが問題視され始めた時代でした。

その頃より日本各地の自然公園ではビジターセンターの整備計画が開始され、高尾山にも昭和43年にビジターセンターが開設されました。その後、自然教育の充実を図るため、昭和57年、落雷により焼失した建物の再建にあわせ解説員が常駐する日本初の施設のひとつとして生まれ変わりました。解説員が常駐した館内ではスライドなどによる高尾山の紹介や展示を駆使した自然公園の利用ルールや自然の見方、楽しみ方についての解説が毎日行われていました。日曜祝日には野外に出て自然教室を開催し、講師を招きボランティアと共に高尾山の自然のすばらしさを人々に伝えていきました。ビジターセンターに保管されている当時の報告書には「様々な県から高尾ビジターセンターの運営とボラ

昭和25年	東京都高尾陣場自然公園の指定
昭和42年	明治の森高尾国定公園を指定
昭和43年	ビジターセンター開館
昭和54年	落雷のため建物消失
昭和57年	ビジターセンター再開館
昭和61年	高尾自然公園管理センター併設
平成10年	ビジターセンター展示室改修
平成27年	ビジターセンターリニューアルオープン



改築前の高尾ビジターセンター

ンティア参加による自然教室の実施などについての視察も受け、そのユニークな存在に期待の目が注がれているのを感じます。」とあります。現在では当たり前のように行われている解説員が人と自然をつなぐ役割となる自然教育のあり方が当時は先駆的であったことが伺えます。

自然とは教室で教科書をみても理解しづらいです。森に出て、初めて体感的にそのすばらしさに気づくものです。高尾ビジターセンターの解説員は人と人との繋がりを大切にしながら時代に合わせた高尾山のすばらしさをこれからも高尾山の山頂から発信し続けていきます。

高尾山の
ふしぎ

vol.1

落とす？落とさない？
オトシブミの揺籃をめぐる謎

高尾山にはオトシブミという昆虫がいます。実はこの仲間、お母さんが揺籃と呼ばれる葉巻をつくってその中に卵を産み、生まれた赤ちゃんはその中の葉を食べて育つという、とても不思議な生活をしています。

この揺籃、切り落とされて地面に転がっているものがよく目につくんですが、探してみると、枝に残っているものもあるんです。これはオトシブミの種類によって違うのかな、と思い調べてみると、なんと、同じ種類のオトシブミでも落とした落とさなかったりするようなのです！

これはとても不思議なことに思われました。なぜなら私は「昆虫は明確な決まりに従って行動しており、そこにあいまいな要素が入ることはない」と信じているからです。

落とすか残すか、という選択にも、オトシブミの親にそれを決めさせる何かがあるはずですが、実際のところ、まだよくわかっていないらしいのですが、必ずどこかに答えがあるはず。葉の大きさや成分なのか？気温などの条件なのか？うーん、突き止めたい！



解説員
福世



オトシブミの成虫

揺籃